

蜂・自然と共生する銀座

環境指標生物

安全都市

銀座といえば、地価の高いハイブランドが並ぶショッピングの街、バーやクラブが多い街、画廊の多いアートの街というイメージもあるかも。いずれにしても東京を代表する街で、高層ビルの並ぶ都会のイメージが強いのではないのでしょうか。そんな銀座のど真ん中に、10万匹以上のミツバチを飼う養蜂所があります。

2006年からスタートした「銀座ミツバチプロジェクト」。銀座でハチミツが採れたら面白い、とはじめたプロジェクトが成長し、現在は銀座のビルの屋上に養蜂所を持ち、年合計で約1トンのハチミツを収穫しています。

銀座ミツバチプロジェクト自体は現在、銀座の屋上に13箇所1000㎡を超える緑化を行い、ミントを作って街のバーと連携したり、楮と三椏から銀座産の和紙を作ったりして街の環境を改善している。

また中央区の幼稚園や小中学校へ出前授業を行い子供たちの環境教育をしたり、福島の前被災地支援などを行い活動を広げている。活動視察もHPから有料にて受け付けている。

「銀座から半径2キロ圏内には皇居・浜離宮・日比谷公園という大きな公園があります。また、街の街路樹も100本単位で植えられています。ミツバチたちは、そこから蜜を集めてきています」。

ミツバチが蜜を集めるのは3～7月。銀座ミツバチプロジェクトのミツバチたちは、3～4月に銀座の街路樹や皇居の「桜」、5月に街路樹の「マロニエ」、6月に皇居外周の「ゆりの木・トチノキ・菩提樹」、7月は国際フォーラムに植えられている「エンジュ」から蜜を集めてまわるそうです。最盛期は6月で、1週間に約100キロのハチミツが採れるそうです。まさに、半径2キロ圏内の自然の恵みを食べる、“究極の地産池消”。

ミツバチは、蜜をとるときに受粉をして花を咲かせます。銀座ミツバチプロジェクトがスタートしてまもなく、銀座の街路樹に花が咲きはじめ、街に変化が出てきました。その目に見える環境の変化が現れたときに、銀座に仲間が増えたそうです。

「街に花が咲いていくのに気がついた方や、ハチミツを味見して美味しさを認めてくれた銀座の飲食店の皆さんが、ハチミツを商品に使ってくれるようになりました。今では様々な店舗が銀座限定品として商品を販売していただいています。ミツバチが飛びまわるという性格上、自分たちだけで養蜂はできないので、クローズした組織ではなく、街に寄り添っていく方法を考えて今のかたちに落ち着きました」。

ミツバチは環境指標生物。ミツバチの住める都市は安全な都市といえる。ハチ、イコール“安全”のシンボルとなる。

銀座の街おこしの成功例であることから、東京都内の中延、自由が丘、多摩センター、日本橋、江古田、池はもちろん、北海道、盛岡市、仙台市、横浜市、大分市等、日本全国各地様々なミツバチプロジェクトが派生している。

ご存知ですか？ ミツバチの命は30日程度であること

甘味料のイメージがあるハチミツですが、ヨーロッパでは昔から薬として扱われてきました。ミイラの防腐剤として、ハチミツが使われていたという記録もあるそうです。最後に、ハチミツをつくってくれるミツバチについて少し触れておきます。



ミツバチが生きられるのは30日程度というのはあまり知られていない事実。

生まれてから死ぬまでの役割は決まっています。巣の掃除 子育て 巣の修復 蜜の受け渡し 門番 門番をしながら飛ぶ練習 ハチミツ集め の順に役割をこなして天寿を全うするそうです。

ひとつの巣箱に女王バチは1匹、女王蜂の寿命は3年程度で、女王蜂が死んだら次の女王蜂候補を2～3匹つくります。ただし、1匹目の女王蜂が孵化したら、争いが起きないように残りは殺してしまうそう。

また、働き蜂はメスのみで、オスは何をしているかということ、女王蜂が一生に一度外に出るタイミングで巣の外に出て、女王蜂と交尾をするそうです。ただし、交尾をしたオスはその時点で死亡します。秋、ハチミツが少なくなるころには働き蜂（メス）がオスを巣の外に追い出すため、オスは餓死してしまうそうです。

人間から見たら壮絶な人生ですが、自然の摂理に則った賢い生き方といえるかもしれません。いずれにしても、私たち人間は、そんなミツバチを通して自然の恵みをいただいているのですね。

一匹のミツバチが蜜を見つけると、有名な「八の字ダンス」をして仲間に蜜の場所を伝えます。お尻を振る角度で蜜のある方向を表し、お尻を振る速さで距離を表しているそうです。一体ずつつが意思を持ってコミュニケーションしていると知って、ミツバチに親近感が湧いてきます。

